

平成 21 年 5 月 5 日現在

研究種目： 基盤研究（C）  
 研究期間： 2006～2008  
 課題番号： 18530518  
 研究課題名（和文） 中年期のアイデンティティ危機様態の発達臨床的理解と援助に関する研究  
 研究課題名（英文） A study on identity crises in middle age: An analysis from the viewpoints of developmental and clinical psychology

研究代表者  
 岡本 祐子 (OKAMOTO YUKO)  
 広島大学・大学院教育学研究科・教授  
 研究者番号： 90213991

## 研究成果の概要：

本研究は、中年期に顕在化する心理臨床的問題をアイデンティティの発達臨床的視点から分析した。研究 1 では、研究代表者の心理療法事例を、葛藤の根の深さ(病理水準)によって分類し、中年期危機の現れ方と心理療法の視点・技法について考察した。研究 2 では、中年期女性のアイデンティティ危機に焦点を当てて、子どもの巣立ちにともなう危機体験の特質と回復のプロセスを分析した。研究 3 では、中年期のアイデンティティ危機の基礎研究として、時間的展望の質的変容を年齢層別に分析した。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,100,000	0	1,100,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	390,000	2,790,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 心理学・教育心理学

キーワード： アイデンティティ， 中年期危機， 発達の理解， 臨床的援助

## 1. 研究開始当初の背景

中年期は生物学的、心理的、社会的ないずれの次元でも大きな変化が体験される人生の転換期である。その重要な部分が、喪失や衰退というネガティブな変化であることか

ら、中年期に生じる心理臨床的問題は、個々人のアイデンティティが揺り動かされる「構造的危機」ととらえることができる。

21 世紀を迎えた今日、その危機の中身はさらに深刻化、多様化している。中年職業人の

うつ、少子高齢社会による老親を支える重荷、フリーター、ニートなど自立しない成人の子供を抱える重荷が中年世代を圧迫していることなどは、1970-1980年代とは異なる現代社会の中年期アイデンティティ危機の特質である。

## 2. 研究の目的

本研究は、現代社会におけるアイデンティティ危機の実相を、個人のあり方と、関係性の持ち方の視点からとらえ、発達臨床的理解と援助の方策を検討することを目的とした。具体的には、

- ① 中年期のアイデンティティ危機(アイデンティティの揺らぎや、問い直し)の特質を、葛藤の根の深さ(幼児期/青年期/成人期以降)との関連で分析し、心理療法の視点と技法について考察する(研究 1-1)。
- ② ①の危機の現れ方を関係性の持ち方、特に老親と中年の子ども、中年の夫婦、中年の親と青年期の子どもという3世代にわたる家族関係の視点から検討する(研究 1-2)。
- ③ 中年期危機の基礎研究として、3-1)中年期の母親のアイデンティティの危機の特質と、危機からの回復のプロセス(研究 2-1, 研究 2-2)、および中年期の時間的展望の特質とメンタルヘルスの関連(研究 3)。

について検討した。

## 3. 研究の方法

- ①研究 1-1, 研究 1-2: 研究代表者が臨床心理士として関わった心理療法事例の分析。
- ②研究 2-1, 研究 2-2, 研究 3: 質問紙調査および個別面接調査。

## 4. 研究成果

〈研究 1-1〉 心理臨床事例に基づいた中年期危機の発達の理解と心理臨床的援助  
研究代表者の行った中年期のクライアントに対する心理療法の9事例の心理面接過程を、1. 中年期危機の現れ方の特質、2. 心理的葛藤の根の深さと心理療法過程の関連性、の視点から分析した。(1) 中年期危機の特質としては、自分自身の老化や更年期障害による「若くてタフな自分」の喪失、子どもの自立や親離れによる「親としての自分」の喪失、支えであった親の老化や死、理想化していた他者の喪失など、中年期特有の喪失体験が見られた。また、幼児期・児童期・青年期の未解決の心理社会的課題や、世代性における躓きが中年期危機を引き起こしている事例も見られた。(2) 問題や未解決の葛藤の根が、1. 成人初期以降(Aレベル)、2. 思春期・青年期(Bレベル)、3. 乳幼児期(Cレベル)のいずれにあるかによって、中年期危機の現れ方や、心理面接の深さや展開はかなり異なることが示唆された。

〈研究 1-2〉 3世代にわたる家族の視点から見た中年期危機の発達の理解と心理臨床的援助

研究代表者の行った中年期のクライアントに対する心理療法事例を、その来談の主訴から、① 中年期の親と青年期の子ども、② 夫婦関係を中心とした中年世代の家族危機、③ 中年期の子どもと老年期の親の問題に分類し、その心理力動と心理臨床的援助について考察した。中年期危機によって、人生前半期の未解決の家族葛藤が顕在化すること、未解決の葛藤の根が、乳幼児期、青年期、成人初期以降のいずれにあるかによって、問題の理解、心理面接の深さや面接の展開過程は異なることが示唆された。また中年期のアイデンティティの再構築は、主体的に納得できる自分を獲得すると同時に、自分にとって重要な

他者(多くは家族)との適切な心理的距離がとれることによって達成されることが示された。

#### 〈研究 2-1〉 中年期の母親におけるアイデンティティ葛藤の分析

中年期前期の母親を対象に、「個としてのアイデンティティ」と「母親アイデンティティ」の葛藤・バランス・統合の様態と、育児に関する心理臨床的問題の現れ方を分析した。対象者は、2つのアイデンティティの確立の程度によって4タイプに分類された。2つのアイデンティティの確立のあり方によって、母親役割を受け入れる段階で葛藤している母親、葛藤を回避している母親、葛藤が生じていない母親、葛藤を経て統合させている母親という、葛藤経験の特徴が見出された。また、2つのアイデンティティの位置づけと葛藤のあり方が、育児困難の内容や程度と関連していることが示唆された。

#### 〈研究 2-2〉 中年期の母親のアイデンティティ再体制化プロセスの分析

ポスト子育て期の母親のアイデンティティ再体制化のプロセスを実証的に検討した。まず質問紙調査によって、子どもの巣立ち期・最中・巣立ち後の各時期におけるアイデンティティ変容の特徴を数量的に分析した。次に、半構造化面接調査を行い、子どもの巣立ちにともなう母親のアイデンティティ変容プロセスを質的に検討した。その結果、①空虚感・無力感にはかなりの個人差が見られ、現代の母親は、子どもの巣立ちを必ずしも否定的に受け止めてはいないこと、②子どもの「成長」とともに「巣立ち」を母親自身が認識することが、アイデンティティ変容に影響を及ぼし、巣立ちの進行と並行して、母親自身の生き方・あり方の問い直しと模索が進んでいくプロセスが明らかになった。本研究により、これまで「空の巣症候群」など、否定的に

みなされてきたポスト子育て期の心理とは異なる、現代の母親の心理的特徴が示唆された。

#### 〈研究 3〉 中年期の時間的展望とメンタルヘルスの関連

中年期の峠を越えることによって変容する時間的展望の質的特徴を分析した。40歳代では現在の充実感、50歳代では過去の受容と現在の充実感、60歳代では現在の充実感と未来への希望がメンタルヘルスに関連することが示された。それらの様相を、半構造化面接によって質的に分析した結果、中年期の身体的心理的变化の気づきや受容にともなって、40歳代では過去を土台にして自己をとらえ、50歳代では未来を志向する中で過去のできごとに対する必然感が生じること、60歳代では、自ら生成した自己を受容し、それを表現する場としての未来を志向していることが示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計 8 件)

1. 日潟淳子・岡本祐子 2008 中年期の時間的展望と精神的健康との関連：40歳代,50歳代,60歳代の年代別による検討. 発達心理学研究,19,144-156. (査読有)
2. 兼田祐美・岡本祐子 2008 ポスト子育て期女性のアイデンティティ再体制化に関する研究. 広島大学心理学研究, 7, 187-206.(査読無)
3. 永田彰子・岡本祐子 2008 重要な他者との関係を通して構築された関係性様態の特徴:信頼感及びアイデンティティとの関連. 教育心理学研究, 56, 149-159. (査読有)
4. 宗田直子・岡本祐子 2008 「個」と「関係性」からみた青年後期・成人期のアイデンティティに関する研究Ⅰ－「関係性」の次元に着目して－ 広島大学大学院教

育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域), 57, 195-204. (査読無)

5. 山田みき・岡本祐子 2008 「個」と「関係性」からみた青年期におけるアイデンティティ: 対人関係の特徴の分析. 発達心理学研究, 19, 108-120. (査読有)
6. 山田みき・岡本祐子 2007 「個」と「関係性」からみた青年期のアイデンティティに関する研究の動向と展望 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域), 56, 199-206. (査読無)
7. 山田みき・岡本祐子 2007 「個」と「関係性」からみた青年期のアイデンティティと対人関係上の困難との関連 広島大学心理学研究, 7, 159-171. (査読無)
8. 豊田史代・岡本祐子 2006 育児期の女性における「母親としての自己」「個人としての自己」の葛藤と統合. 広島大学心理学研究, 6, 201-222. (査読無)

#### [学会発表] (計 8 件)

1. 山田みき・岡本祐子 2009 進路選択における心理状態からみた青年期のアイデンティティ―「個」と「関係性」の視点から― 日本発達心理学会第 20 回大会, 2009.3.26. 日本女子大学
2. 岡本祐子他 2009 <シンポジウム>アイデンティティの生涯発達における「個」と「関係性」をどうとらえるか―理論的再考と実証研究の方向性― 日本発達心理学会第 20 回大会, 2009.3.25. 日本女子大学.
3. 深瀬裕子・岡本祐子 2009 老年期における Erikson の心理社会的発達課題の特徴の検討. 日本発達心理学会第 20 回大会, 2009.3.25. 日本女子大学.
4. 岡本祐子・下仲順子他 2008 家族の生涯

発達―夫婦の過去・現在・未来―

日本発達心理学会第 19 回大会, 2008.3.19. 大阪国際会議場.

5. 岡本祐子 2007 葛藤の深さから見た中年期危機の現れ方と心理面接過程の特徴. 日本心理臨床学会第 26 回大会, 2007.9.27. 東京国際フォーラム.
6. 山田みき・岡本祐子 2007 「個」と「関係性」から捉えた青年期のアイデンティティと対人関係上の困難への対処との関連 日本心理臨床学会第 26 回大会, 2007.9.28. 東京国際フォーラム.
7. 山田みき・岡本祐子 2007 青年期における「個」と「関係性」からみたアイデンティティの構造 日本青年心理学会第 15 回大会. 2007.11.10. 広島大学
8. 山田みき・岡本祐子 2006 対人関係の語りに見られる青年のアイデンティティ発達の特徴―アイデンティティにおける「個」と「関係性」の視点から― 日本質的心理学会第 3 回大会, 2006.8.3. 九州大学.

#### [図書] (計 3 件)

1. やまだようこ・岡本祐子 他 2008 質的心理学講座 第 2 巻 人生と病の語り. 東京大学出版会, 総ページ数 280 頁.
2. 高橋靖恵・岡本祐子 他 2008 家族のライフサイクルと心理臨床. 金子書房, 総ページ数 150 頁.
3. 岡本祐子 2007 アイデンティティ生涯発達論の展開: 中年期の危機と心の深化. ミネルヴァ書房, 総ページ数 210 頁.

6. 研究組織  
(1) 研究代表者

岡本 祐子 (OKAMOTO YUKO)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号: 90213991

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

山田 みき  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
後期在学

永田 彰子  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
後期在学

日潟 淳子  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
前期在学

兼田 祐美  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
前期在学

豊田 史代  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
前期在学

宗田 直子  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
前期在学

深瀬 裕子  
広島大学・大学院教育学研究科・博士課程  
前期在学